

勇気をもって

高三

この世界には、いじめというものがあります。それは、私が生まれる前からありました。私たち一人一人がなくすように努力し、いつかいじめのない世の中になりたいと願っています。

幼い頃は誰もが、いつも自分が正しくて、自分が一番だと思っています。だから、自分と考えが合わないから、わかってもらえないから、いじめてしまうのだと思っています。仕方ないとあきらめていました。きっかけは些細なことでした。いつも一人で本を読んでいる子に話しかけると、その子は笑顔で私の話を聞いてくれました。うれしくて、その子と何度も話をしました。しかし、ある日、仲の良かった子から、「あの子と話しちゃだめ。」といわれました。理由を聞くと、「本ばかり読んでいて暗い。」「嫌いだから。」

と返ってきました。そして、

「皆であの子を無視しよう。」

といわれました。私は首を横に振り、必死にやめさせようと思いました。しかし、あの子を無視しないと、私のことも無視する、と言われました。怖くてたまりませんでした。でも、私が無視したら、あの子はきっと笑顔を失ってしまう。次の日から友達があの子を無視し始めました。そして、それはいつの間にかクラス全体に広がり、クラスの皆がその子を見無視しました。その無視の輪が自分のところに来るかと思うと、怖くて身体が震えました。目を閉じて耳をふさいで、とうとう私は彼女と話すことをやめました。友達とはしゃぐ私を見ていた彼女の瞳は何を映していたのでしょうか。私の友達は、

「これはいじめじゃないよ。嫌いな子と話さないのは普通だよ。」

と言いました。これは本当にいじめではないのでしょうか。

もう一つ、知り合いから聞いた話があります。ある女の子がいじめられていて、それを先生が見

つけ、注意をしました。しかし、いじめていた子達は、

「これはいじめじゃない。」

と否定しました。その子達は、本人に聞こえないように悪口を言ったり、わざとぶつかったりしていたのにもかかわらず、

「こんなのでいじめと言われるなら、どんな些細なことでもいじめになる。」

と言ったのです。

「悪口なんてみんな言ってるし、本人に聞こえないればいい。ぶつかってもちゃんと謝ってる。」

いじめていた子達はそう主張しました。しかし、いじめをうけている子にはそれが苦痛でたまらなかつたのです。聞こえないと思っている悪口は、実際は本人の耳にも届いているし、ぶつかられても謝っているのは、いじめを受けている子のほうでした。

何がいじめで、どこからがいけないのか。友達には私に、無視はいじめではないと言いました。いじている子は、本人に聞こえないように悪口を

言えばいいと言いました。しかしそれは間違っていると思うのです。聞こえない悪口、無視、いじめを見て見ぬふりをする、これはすべていじめです。自分が人にされて嫌なことは、いじめだと思っています。

私がいちばん許せないのは、「いじめを受けている人にも責任がある」と言う人です。いじめを受けている人は何も悪くありません。ただ人より少し優しく、心が綺麗なだけ。

そして、いじめを見て見ぬふりをする人たち。彼らの気持ちは痛いほどわかります。助けたいけど助けたら自分がいじめられる。自分の正義を貫けなくて動けずにいる、そんなことを誰もが思っているのではないのでしょうか。しかしほんのちよつとでもいい、勇気を出してほしいのです。その少しの勇気がたくさんの希望を生むと思うのです。

また、今も誰かを傷つけている人。あなたにはみんなをまとめる力がある。その力を自分だけではなく、人のために、優しい力として使って欲しいのです。そして、知って欲しい。今、傷つけて

いるその人の痛みを、自分の心の弱さを。あなたにとって目障りかもしれない。でもその人は懸命に生きています。不器用でも必死にもがいて、前を向いて。心を開いて、手を伸ばしてください。わかりあえる心があることを忘れないで。

そして、誰かに相談できずに苦しんでいる人。相談したら、いじめがひどくなるかもしれないと誰にも相談せず、悩んでいる人。怖いかもしれないけど、誰かに相談してみてください。気持ちをおわかってくれる人がいるはずですよ。

あの日の私になかった強さと勇気。何をされても屈しない強さと、やめなよと言う勇気。もし、あの時の私をもっと強い人だったら、あの子の笑顔を守れたかも知れません。

今の私が言えること。どうか勇気をもってほしい。自分の正義を貫く勇気を、自分の弱さを知って手を伸ばす勇気を、怖がらないで誰かに相談する勇気を。

わかりあえる心を持っているみんなへ。誰よりも強いあなたへ。心優しい君へ。怖がらないで勇気をもってほしい。その勇気は、笑顔の鍵になる

はずだから。

